



2025-26 年度
福山西ロータリークラブ

例会情報

第1634回(18)

会 長 河 村 直 孝 幹 事 小 林 崇

クラブ会長テーマ



「 明るく楽しくみんなで奉仕 」

日 時	2025 年 12 月 9 日 (火) 12:30 ~
場 所	福山ニューキャッスルホテル
例会行事	点 鐘 ・ ソング 「我等の生業」 ゲスト・ビジターの紹介 (出席報告参照) 会 長 報 告 幹 事 報 告 出 席 報 告 S A A 報 告 ス マ イ ル 報 告 プ ロ グ ラ ム 情 報 そ の 他 報 告

その他情報	メークアップ情報 (来週分) メークアップ情報 (再来週分) 今後の行事予定 クラブ活動報告
-------	---



**UNITE
FOR
GOOD**

【 会 長 報 告 】



皆さま、こんにちは。

先日、東京ビッグサイトで開催された「国際ロボット展」に行っていました。

世界最大級と言われるだけあって、会場はまさに“未来の縮図”のようでした。

今回特に印象的だったのは、ロボットが単に工場で働く機械ではなく、

“人と共に働くパートナー”として進化している点です。会場では、人の動きを読み取って一緒に荷物を持ち上げる協働ロボット、危険な場所へ代わりに入って点検するロボット、人の動作に同調して動くヒューマノイドロボット、さらには高齢者の見守りや日常生活のサポートをするロボットまで登場しており、いよいよ私たちのすぐ隣まで未来が来ていることを実感しました。

また、AIを搭載したロボットの増加も目立っていました。

以前はプログラム通りに動くのがロボットでしたが、今は状況を判断し、人の癖や作業の流れを学習しながら、その場で最適な動きを選ぶ“考えるロボット”が増えています。

特に、製造業や物流の分野では効率化だけでなく、人手不足を補う存在として期待が高まっているようです。会場を回って感じたのは、技術の進歩がもはや線ではなく、“面”で広がり始めているということです。

産業、医療、介護、教育、家庭、自治体の現場――

どの分野にもロボットが入り込み始め、私たちの働き方や生活のあり方そのものが、これから大きく変わっていくことを感じました。しかし同時に、どれだけ技術が進んでも、最終的にその価値を決めるのは「人」だということも改めて思わされました。

ロボットの活躍の裏側には、

“人がより安全に、より自由に、より豊かに暮らせるように”という願いがあります。

技術は人を置き換えるためではなく、人を支えるためにある。

国際ロボット展はそのことを強く示していたように感じます。

これから先、ロボットが活躍する場面はますます増えていくでしょう。

私たち自身も、その変化をただ眺めるのではなく、どのように受け止め、どのように活かすかが問われていく時代です。今回の展示会は、その未来を少し先取りして見せてくれた場でした。

以上で挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

【 幹 事 報 告 】



No.	内 容
1	第 2710 地区事務局より ・ガバナー公式訪問御礼 ・米山学友会より 2025-26 年度米山学友会賛助会員入会のお願い ・2026/01/25(日) 第 16 期 RLI-2710 パート I ご案内
2	福山丸之内 RC、福山赤坂 RC より ・G10・11 合同 IM 開催のご案内（3月 20 日金・祝）
3	福山北 RC より ・鞆の浦・福山北ロタリークラブ合同奉仕デー お礼状の件

【 プ ロ グ ラ ム 情 報 】



《 長期ビジョン検討委員会 フォーラム 》



RLI 方式でのフォーラムを開催致しました。

1. 入会前のロータリークラブのイメージ

①「社長・成功者の集まり」というイメージ

- 多数の参加者が「ロータリーは成功した事業者・社長の集まり」という認識を持っていた。
- 年齢層も高く、「ある程度年を重ねないと入れない」「ステータスの高い組織」という印象が語られた。

②「会費が高そう」「堅い組織」

- 会費が高額だろうという予想から、入会に不安を抱いていたという意見が見られた。
- また「厳格・堅い雰囲気」「近寄りがたい団体」というイメージも多かった。

③「活動内容がよくわからない」

- 入会前は奉仕活動の具体像がつかめず、「どのような会か分からないまま誘われた」という声もあった。
- ライオンズクラブなどの他団体との違いも分からなかったという意見が複数あった。

2. 入会後の印象の変化・例会の雰囲気

①「想像よりも親しみやすく、和気あいあいとしていた」

- 実際に参加すると「思ったよりフレンドリー」「話しやすい雰囲気」と感じた会員が多い。
- 例会に参加し、先輩会員に声をかけてもらう中で「紳士的な会」「学びになる会」という評価に変わったという意見が多数あった。

②「人とのつながりができ、成長につながる」

- 継続して例会に出席することでロータリーの理念が理解できた。
- 「仕事の一部として捉えるようになった」「自分の成長のツールになっている」という前向きな意見もあった。

③ 初期は不安・緊張もあった

- 若手の頃は「先輩ばかりで声をかけづらかった」「馴染むまで時間がかかった」と率直な意見があった。
- しかし、その後の会員交流や活動参加により不安が薄れたという。

3. 福山西ロータリークラブの例会構成についての意見。

① 現行方式のメリット

- ・ プログラムに十分な時間を確保できる。
- ・ 会長報告・委員会報告などをしっかり実施でき、運営が安定するという声が多かった。

② 「皆で一斉に食事する方式」の復活を望む意見

- ・ 一緒に食事することで会話が生まれ、クラブ内の一体感を高められる。
- ・ コロナ前は 12:30 から一斉に食事をしており、当時の雰囲気良かったという意見があった。

③ 双方にメリットがあるため、折衷案も提案

- ・ 月の数回は「一斉食事メイン」、他の日は「現行方式」とテーマごとに切り替える提案が出された。
- ・ 一斉食事の際は時間が押し、報告事項の省略が発生するため、その課題解消も含め柔軟な構成を検討すべきとの意見。

④ 会話・交流の重要性

- ・ 新入会員との交流機会確保のためにも「同席の工夫（席の抽選など）」を増やしてほしいという声が上がった。
- ・ 他クラブへのメイクアップでも「食事の共有による会話の広がり」が良い影響を及ぼすという報告があった。

4. リーダーシップとは何か

議論では多様な観点からリーダー像が語られたが、共通点が見られた。

① メンバーを目的へ導く力

- ・ 「組織の理念や目標に向けてメンバーを導く存在」という定義が複数の会員から挙げられた。
- ・ 強い指示ではなく、自然に周囲が協力したくなるよう働きかけることが重要とされた。

② 周囲を活かし、仕組みを整える

- ・ リーダーが頑張るのではなく、リーダーを中心に周囲が動きやすい環境を整える。
- ・ 「フォローが生まれる関係性」「全体の流れを見ながら調整する力」がリーダーシップだという考えが示された。

③ 夢や理想を語り、組織を牽引する存在

- ・ 目標を示し、スケジュールを立て、皆を前向きに導く力。
- ・ 個人のやりたいことだけではなく、全体を調整し方向性を一致させる役割が必要。

④ 信頼される人格

- ・ 信用・信頼がなければ、人はついてこない。
- ・ 人格・誠実さ・思いやりはリーダーの基礎であるという意見も強く共有された。

5. 企業におけるリーダーシップとロータリーのリーダーシップの違い

■【共通点】

- 思いやり・信頼・誠実さに基づく姿勢
- 組織の方向性を示す力
- メンバーをまとめる力

■【相違点】

- ① 企業は「目的達成・売上」が明確、トップダウンも多い
 - 社長の一言で方向性が決まることもある。
 - 評価基準や成果指標があり、指示命令で動く場面も多い。
- ② ロータリーは「自主性・人格尊重・ボトムアップ」的
 - 会員の自主性を重んじ、上からの命令は馴染まない。
 - 年度ごとに会長が変わり、クラブの活動方針が毎年変化する。
 - 長期ビジョンが必要であり、会長はビジョンを踏まえ運営する必要がある。
- ③ ロータリーは奉仕と学びの組織
 - 社会奉仕に向けた合意形成が必要で、メンバーの納得が不可欠。
 - 企業のリーダーのような「指示型」ではなく、「調整型・協働型」のリーダーシップが求められる。

【その他報告】



《各種表彰等》

【誕生日】

《12月19日生まれ 古井 正則 さん》

【 クラブ 活 動 報 告 】



特にありません。

**UNITE
FOR
GOOD**

2025-26 年度 RI 会長メッセージ